

LET GO

GO DO

CODE of CONDUCT | NOMURA

LET GO

GO DO

NOMURA
行動規範

LET GO

GO DO

THE

FO

FOUNDATIONS

CODE

of



CONDUCT

野村グループ企業理念

Purpose パーパス

金融資本市場の力で、
世界と共に挑戦し、豊かな社会を実現する

Management Vision 経営ビジョン

Reaching for Sustainable Growth

Values わたしたち一人ひとりの価値観

挑戦 変化を尊重し、成長への情熱と勇気を持って挑戦を続ける

協働 新たな価値を生み出すために、多様性を尊重し、組織や立場を超えて協働する

誠実 高い倫理観のもと、正しい行動をとる誠実さと信念を持つ

Message from the Group CEO

野村グループの一員としての 高い倫理観と誇りを持って

グループCEO 奥田 健太郎

野村グループは、「金融資本市場の力で、世界と共に挑戦し、豊かな社会を実現する」というパーパスを掲げています。パーパスを策定した理由のひとつは、私たちの思いや理念を明確に伝えることが重要だと考えたからです。

私たちは、パーパスに則った取り組みを実践することで、多くの人々からの信頼や共感がさらに深まると信じています。結果として、私たちの取り組みを様々な形で応援してもらえる機会が増え、会社としても安定した成長が期待できるはずです。

グループとして取り組む多様なビジネスは、お客様をはじめとしたすべてのステークホルダーからの信頼に支えられています。また、社員一人ひとりへの信頼は、グループ全体に対する信頼とつながっています。ビジネスの場面だけでなく、プライベートの場でも日ごろの言動が目まぐるしく注目をされています。一人でも信頼を損なえば、それはグループ全体の信頼を失うことにつながります。

信頼を積み上げていく上で、この「行動規範」は私たちの判断・行動の指針となるものです。日常の小さなことや当たり前のことに普段から誠実に取り組むことで、やがて大きな信頼へとつながります。「おかしい」と感じたことは躊躇せず声をあげる、それを後押しする環境をつくることが重要です。そのためには、組織における多様性が不可欠です。相手を思いやり、尊重し、互いに声をかけあうことでコミュニケーションを深め、安心して相談し合える信頼関係を築くことが大切です。

このパーパスの実践と行動規範を基礎として、当社グループに関する事案を踏まえ策定した個別の対応策を着実に実行し、今後も徹底していかなければなりません。

私を含め全ての社員が野村グループの一員として、ルールや規則の遵守だけに留まらず、高い倫理観を持ち、自信と誇りをもって働くことのできる、社会から真に信頼される会社を目指していきましょう。



CODE of CONDUCT | 目次

グループCEOからのメッセージ → 03

はじめに

野村グループ行動規範とは → 07

行動規範の実践 → 09

行動に迷った場合の5つの質問 → 11

私たちの行動規範 → 13

行動規範 本編

お客様のための行動 → 15

私たち自身のための行動 → 29

社会のための行動 → 45

内容の理解を促進するために、参考として注釈を付けています



正しい行動の具体例



補足情報



Q&A

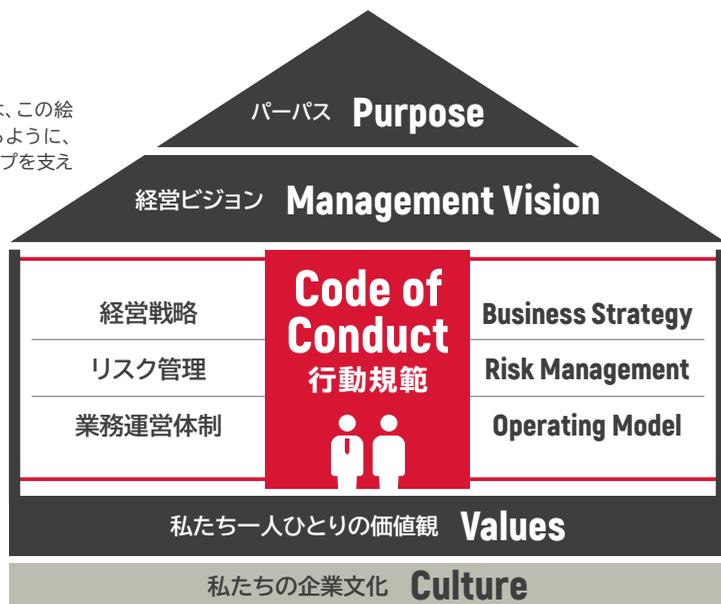
野村グループ行動規範とは

野村グループ行動規範（以下「行動規範」）は、野村グループの役職員が、野村グループ企業理念を具体的な行動に移すための指針となるものです。

私たちは日々、行動規範に立ち返り、野村グループの役職員として取るべき行動を確認します。また、私たちは、行動規範に沿って、高い倫理観をもって業務に取り組むことを、お客様をはじめとするすべてのステークホルダーの皆様にお約束します。

野村グループは、あらゆる企業活動を行動規範に基づいて実行していきます。

行動規範は、この絵で示されるように、野村グループを支える柱です。



Q 創業の精神や野村グループ企業理念と、行動規範は違うのですか？

A 野村グループ企業理念は、創業の精神に立脚して、野村グループのパーパスと経営ビジョン、そしてその実現のために、私たちが常に持ち続けなくてはならない価値観を示したものです。この企業理念に凝縮される価値観を私たち一人ひとりが具体的な行動に移すための指針として、この行動規範を策定しています。

Q 行動規範と社規・社則は違うのですか？

A 行動規範は、社規・社則の上位に位置しています。社規・社則は、野村グループの企業活動や一人ひとりの行動が、この行動規範に沿って実行されるために必要となる具体的なルールや手続きを定めたものです。

Q 誰が対象ですか？

A 野村グループ各社に所属する全役職員です。

行動規範の実践

役職員は

私たちは、野村グループの一員として、行動規範に基づいて行動する責務を負っています。

行動規範の実践によって、お客様からの信頼や期待に応え、市場の公正性・公平性の確保に貢献していきます。

上席者は

上席者は、加えて、以下の責務も負っています。

| | |
|------------|--|
| 自ら模範を示す | 行動規範の内容を自ら実践することで、チームを正しい方向へ導きます。 |
| 行動規範の定着を図る | 行動規範の内容を正しく伝え、チーム内への定着を図ります。 |
| 安心感を提供する | 部下一人ひとりの人格を尊重し、意見に耳を傾け、チーム内で率直なコミュニケーションを行うことができる環境づくりに努めます。 |
| 部下を成長へと導く | 部下一人ひとりの個性を把握し、それぞれの状況に応じて継続的な指導と育成を行います。 |
| 公正な評価をする | 能力、業務に取り組む姿勢、コンプライアンス意識、チームへの影響度なども考慮して、公正に評価します。 |

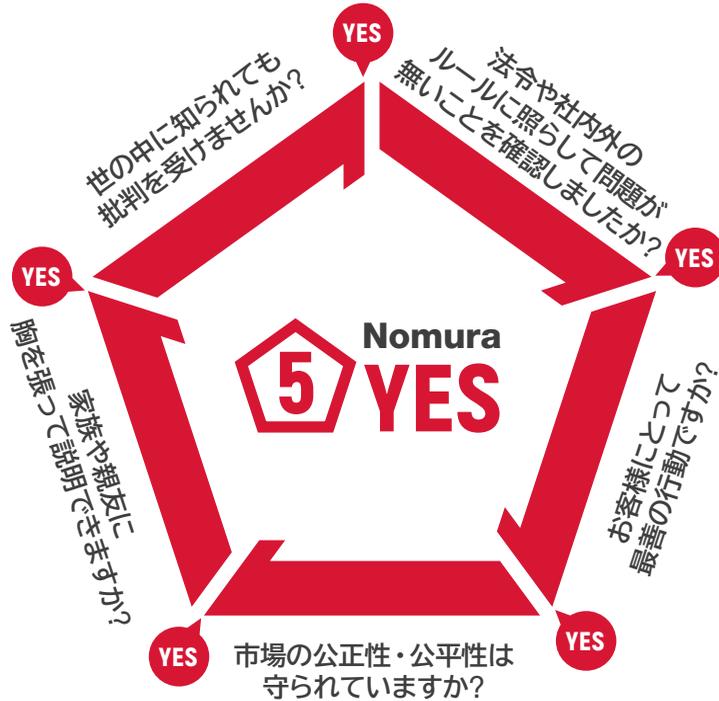
行動規範を 守らない場合は

行動規範に反した結果、
市場やお客様の信頼を裏切る、
あるいは野村グループの信用を
傷つけることにつながった場合には、
人事評価において考慮されたり、
懲戒処分を受ける場合があります。

また、そのような場合、
上席者は管理者としての
責任が問われることがあります。

行動に迷った場合の5つの質問

行動に迷った場合、次の質問をあなた自身に問いかけてみてください。



疑問や懸念がある場合は一人で判断せず上席者、内部管理責任者、業務管理者またはコンプライアンス部署に相談してください

QA

Q 答えにNOがある場合、どうすればよいですか？

A そのまま進めてはいけません。もう一度あなたが今とろうとしている行動の問題点を確認し、答えがすべてYESになるように改善してください。判断できない場合は、上席者、内部管理責任者、業務管理者またはコンプライアンス部署に相談してください。

Q お客様と会社のために利益相反が生じた場合、どのように判断すべきですか？

A 行動規範を遵守した上でお客様の最善の利益を優先してください。判断に迷った場合は“Nomura 5 YES”の5つの質問がすべてYESであるかを確認して行動してください。

私たちの行動規範

行動規範は、お客様、私たち自身、社会という3つの軸に基づき、私たちが大切にしている挑戦・協働・誠実という価値観を具体的な行動に移すための指針です。

次ページ以降、それぞれの項目について、具体的に示していきます。



お客様のための行動

CONDUCT for CLIENTS

→15



私たち自身のための行動

CONDUCT for OUR PEOPLE

→29



社会のための行動

CONDUCT for SOCIETY

→45

挑 戦

- 01 お客様に最善な利益の追求 →17
- 02 高度な専門性の提供 →19

- 07 リスクと正しく向き合う →31
- 08 成長への情熱 →33
- 09 互いの成長支援 →34

- 17 次の時代への一歩 →47

協 働

- 03 総合力の発揮 →21

- 10 チームワークの向上 →35
- 11 働きやすい環境作り →36

- 18 持続可能な社会への貢献 →49

誠 実

- 04 最も信頼できるパートナー →23
- 05 高いコンプライアンス意識 →25
- 06 情報の適正な取扱い →27

- 12 私利追求の禁止 →37
- 13 贈答や接待の管理 →38
- 14 品性と自己規律 →39
- 15 過ちから学ぶ →41
- 16 声をあげる責任 →43

- 19 多様性と人権の尊重 →51
- 20 適切な情報開示 →52



CONDUCT

for

CLIENTS

私たちは、「すべてはお客様のために」という基本観のもと、常にお客様を第一に考えて行動します。

お客様にとって信頼できる最良のパートナーであり続けるために、私たちは、誠実にお客様と向き合い、協働を続け、常に最上のサービスを提供します。

CONDUCT for CLIENTS

お客様のための行動

- 01 お客様に最善な利益の追求 →17
- 02 高度な専門性の提供 →19
- 03 総合力の発揮 →21
- 04 最も信頼できるパートナー →23
- 05 高いコンプライアンス意識 →25
- 06 情報の適正な取扱い →27

01

お客様に最善な利益の追求

私たちは、常にお客様に寄り添い、お客様の声に耳を傾け、お客様一人ひとりのお悩みやニーズにあったきめ細やかな商品開発、運用、販売、資金調達の提案等を行い、お客様に最善な利益の実現に貢献します。

お客様にとっての最善の利益を追求するために



- お客様に敬意を持って接し、お客様が求めていることをきちんと理解します
- お客様のリスクの理解度に応じて、商品やサービスを丁寧に説明します
- お客様の期待を上回るご提案を行うよう努めます
- お客様と接する機会の有無にかかわらず、お客様にどう影響するのかをよく考えながら業務を進めます

「お客様に最善な利益」とは



お客様が求めていることに対して、行動規範を遵守した上で金融のプロフェッショナルとして、最適なソリューションを提供することが、そのお客様の「最善の利益」につながります。最善の利益とは、必ずしも、経済的な利益を最大にすることだけを意味するわけではありません。

お客様にとって必ずしも得策でないと考えた場合には、そのことをはっきり伝えることも、お客様の最善の利益を追求するために必要です。

02 高度な専門性の提供

私たちは、金融のプロフェッショナルとしての自覚と責任を持ち、自らの専門性を高めてお客様に最善のご提案ができるよう行動します。

お客様にとってのリスクを理解して、適時・適切な行動を取ります。

お客様に高度な専門性を提供するために



- 金融資本市場を中心に世界中の最新の動向にアンテナを張り、情報収集を行います
- お客様にとってのリスクを敏感に察知する能力を身につけます
- 金融知識にとどまらず、好奇心をもって、幅広い知識の習得に努めます

テールリスク



今まで起こったことはないから心配ないだろう、起こったとしても数十年に一度起こるか起こらないか程度だろう、と想定していたことが実際に起こってしまい、甚大な損失につながった事例は数多くあります。

リスクには、稀にしか発生しないものの、万が一顕在化したら甚大な被害や損失をもたらすリスク(テールリスク)もあると認識する必要があります。

03

総合力の発揮

私たちは、野村グループが培ってきた総合力を活用し、組織の垣根を越えて、お客様に最適なソリューションを提供していきます。

グローバルに競争力のあるサービスを生み出すため、国・地域を越えて、協働します。

総合力を活用するために



- 部門・部署それぞれの業務や役割を理解します
- 野村グループが展開する幅広い事業・サービスを把握します
- 野村グループ内にある様々な機能を有機的に結び付け、積極的に連携します

野村グループの強みの活用



野村グループには、様々な機能があります。お客様から新しいニーズをお伺いできた際は、それらにお応えすべく周囲や上席者に相談したり、自ら社内に関連する部署に問い合わせるなど様々なリソースを活用しチャレンジします。また、日頃から他の部門・部署の状況に関心を持ち、社内のネットワークを育むよう心がけます。

04

最も信頼できるパートナー

私たちは、常にお客様を中心に考え、誠実にお客様と向き合います。
そして、お客様との長期的な信頼関係を構築していきます。

お客様にとって最も信頼できるパートナーであり続けるために



- お客様それぞれにふさわしい商品・サービスを提案します
- お客様には、常に分かりやすい説明を心がけます
- 事務処理上のミスによりお客様にご迷惑をおかけしないように、業務の品質向上に努めます
- お客様に丁寧なフォローを行い、お伝えにくいことも含め、早く正しくお伝えします
- たとえお客様が望まれることであっても、お客様のためにならないと考えた場合には、その旨をはっきりとお伝えします

「お客様のため」とは



お客様の望むことであれば違法でない限り何でもやっていいというわけではありません。

市場の公正性・公平性を損なう行為、一般常識から乖離している行為は、結果としてお客様のためにはなりません。

目先の利益にとらわれることなく、お客様との長期的な信頼関係を構築する視点から、その行動が正しいか自問してください。

そのうえで、改めて“Nomura 5 YES”に立ち戻り、自分の行動を確認してみましょう。

お客様のための行動

05

高いコンプライアンス意識

私たちは、各国の法令諸規則を厳守します。

さらに、その形式的な遵守にとどまることなく、お客様の保護と市場の公正性・公平性の確保のため、より高い水準のコンプライアンス意識をもって、業務に取り組みます。

これらは、金融資本市場において、決して許されない行為の代表例です

インサイダー取引

未公表の重要事実を知った者がその情報に基づき取引を行うと、公表されなければ当該情報を知り得ない一般投資家と比べて、著しく有利となり、不公平が生じます。



相場操縦

相場をわざと変動させたり、株価を釘付けにする目的で取引が行われると、投資家の判断を誤らせ、市場における公正な価格形成を阻害することにつながります。



このような行為により、市場の公正性・公平性が損なわれると、投資家の信頼は失われます。金融資本市場に携わる私たちは、このような行為に厳正に対処するとともに、公正かつ誠実な取引の原則に基づいて行動する必要があります。

マネー・ローンダリング

取引時の本人確認等が不十分で、本人になりすました取引等を許してしまうと、犯罪収益の金融資本市場への流入や、テロリストへの資金供与を防ぐことができなくなります。



反社会的勢力との関係

反社会的勢力または団体との取引が遮断されないと、結果としてこれらの者が違法行為を行うための経済的基盤を作ることにつながる可能性があります。



このような行為により、犯罪組織やテロリストなどの経済的基盤の強化が助長されると、経済全体の健全性が損なわれます。金融資本市場に携わる私たちは、高いレベルの管理体制で、これらの行為を防止しなければなりません。

説明義務違反

お客様への投資勧誘に際しては金融商品・取引の商品性とリスクについて正しくお伝えしなければ、お客様が投資判断を誤ってしまう危険性があります。



利益相反

取引の仲介者となる証券会社の業務では、利益相反を適切に管理しなければ、お客様の利益が不当に害されることとなります。



このような行為は、お客様の不利益につながります。私たちはお客様に対して真摯な行動を取らなければなりません。

06 情報の適正な取扱い

お客様から信頼され、安心してご相談をいただけるよう、私たちは、お客様の個人情報をはじめ、お預かりした情報については、サービス向上のために活用するとともに、厳正に管理します。

インサイダー情報、法人関係情報、公的機関等から取得された非公知の重要な情報等については、市場の公正性・公平性の観点から厳格に取り扱うとともに、絶対に不正な利用は行いません。

役職員の情報その他野村グループに関係する情報については、野村グループの信頼の維持の観点から、適切な管理を行います。

野村グループに関する情報の取扱い



会社の業務内容や社内の状況など、野村グループに関する情報は、社外の人にみだりに伝えてはいけません。たとえ、その相手が、野村グループを退職した元役員であっても同様です。社外の人から、顧客情報等の提示を求められた場合には、速やかに上席者に報告してください。また、メディアから接触があった場合には、自分の判断で対応するのではなく、速やかにグループ広報部に連絡し、指示を仰いでください。



Q お客様には有利な情報をいち早くお伝えすることこそがお客様のためになると思うので、インサイダー情報のように法令で禁止されていないければ、お伝えして問題はないでしょうか？

A 問題になる場合もあります。たとえば、株価に大きな影響を与える非公開の情報を、一部のお客様だけに伝えることは、市場の公正性・公平性を損なうといえます。判断に迷う場合には、コンプライアンス部署等に相談しましょう。



私たちは、変化に対応していかなければなりません。

品性を保ち、自らを律し、自分自身を高める努力を続け、
お客様にとって信頼できる最良のパートナーであり続けます。

CONDUCT for OUR PEOPLE

私たち自身のための行動

- | | | | | | |
|----|-------------|------|----|----------|------|
| 07 | リスクと正しく向き合う | → 31 | 12 | 私利追求の禁止 | → 37 |
| 08 | 成長への情熱 | → 33 | 13 | 贈答や接待の管理 | → 38 |
| 09 | 互いの成長支援 | → 34 | 14 | 品性と自己規律 | → 39 |
| 10 | チームワークの向上 | → 35 | 15 | 過ちから学ぶ | → 41 |
| 11 | 働きやすい環境作り | → 36 | 16 | 声をあげる責任 | → 43 |

リスクと正しく向き合う

私たちは、リスクに関する知識を深め、正しく認識・評価し、能動的に管理します。

その上で、適切なリスクを取り、お客様への良質なサービスの提供や野村グループの企業価値向上に努めます。

一人ひとりが主体となり、かつ協働して、将来の不測の事態に備えます。

リスクと正しく向き合うために



- 私たちは、自らがリスク管理の当事者であることを自覚し、他人任せにせず、考え、行動します
- 私たちは、すべてのステークホルダーからの信頼を維持するためにも、リスク管理に関するルールや規則の形式的な遵守にとどまらず、その目的と背景を理解し、金融機関に求められる高い専門性と倫理観を持って誠実かつ適切な対応を行います
- 私たちはリスクを過小評価したり、誤った行動を取る場合があることを自覚し、自分が直接関わっていない業務でも、リスク管理上の懸念や問題を認識した場合は、上席者や関連部署に速やかに報告・相談するなど積極的に声をあげます
- 私たちは、あげられた意見を尊重し、不利益な取り扱いをしないなど、自分の考えや気持ちを誰に対しても安心して発言できる心理的安全性のある職場づくりに努め、組織としてリスクを正しく認識し、適切な判断を行います

Q リスクにはどのような種類があり、対応が求められるのでしょうか？

A リスクには大きく以下のような種類があり、対応が求められます。

適切な管理の下で選択的に取るリスク

トレーディング業務等では、金利や為替、株式等などの変動により損失を被る可能性をいう「市場リスク」、店頭デリバティブ等の相対取引や、ファイナンス取引では、相手先（債務者）が、あらかじめ決められた契約通りに支払えなくなり、野村グループが損失を被る可能性をいう「信用リスク」などが含まれ、適切なリスク管理が求められます。

完全に防ぐことのできないリスク

「オペレーショナル・リスク」のうち、業務遂行上の人的ミスによるもの、自然災害や社外の第三者によるミスといった外部要因によるものなどに加え、「レピュテーション・リスク」のうち、ステークホルダーの期待と異なる行動により、物議を醸すおそれがあるものなどが含まれ、これらが顕在化するリスクを可能な限り抑制する取り組みが求められます。

取ってはいけないリスク

「オペレーショナル・リスク」のうち、法令諸規則の違反や市場の公正性・公平性や顧客保護に悪影響を及ぼすものなどに加え、「レピュテーション・リスク」のうち、社会からの信頼を失墜させ、野村グループの企業価値を著しく損なうおそれがあるものなどが含まれ、これらのリスクを排除する取り組みが求められます。

08 成長への情熱

私たちは、現状に甘んじることなく、自らの可能性を信じて、常に一步前進することを心がけます。

成長し続けるために



- 積極的に他者の意見にも耳を傾け、自らの考え方を進化させます
- 自らの強みを発揮して、プロセスの改善、新技術の活用に積極的に取り組みます
- 各種資格の取得などを通じて学び続けます



Q 新しい業務にチャレンジしたいのですが、失敗することが不安で迷っています。

A 野村グループは、勇気をもって挑戦する人をサポートします。失敗を恐れることなく、成長への情熱を大切にチャレンジしてください。上席者は部下をしっかりサポートすることで、成長への意欲を引き出すよう努めてください。

09 互いの成長支援

私たちは、一人ひとりが能力を自ら伸ばし、また他者の可能性を認識して成長を支援することにより、全員が能力を最大限に発揮できるよう努めます。

成長支援にあたっては



- 対話を通じて相手の成長に何が必要かを真剣に考え、能力を発揮できるよう支援し合います

指導とハラスメント



業務において適正に行われる指導等は、パワー・ハラスメントにはあたりません。なお上席者には、様々なコミュニケーションを通して部下を成長へと導くことが求められています。

私たち自身のための行動

10 チームワークの向上

私たちは、お互いを思いやり、
安心して相談し合える信頼関係を構築します。

私たちは、多様性を尊重し、
チームとしての力を最大限発揮します。

チームとしての力を最大限発揮するために



- 一人ひとりの強みを生かします
- コミュニケーションの質を高め、相互理解を深めます
- チーム内で情報や知識、リスク認識やノウハウを積極的に共有し、活用します
- チームの目標を共有し、その実現に向けて全員で協力して行動します

11 働きやすい環境作り

私たちは、お互いを認め合い、一人ひとりが能力を発揮し、
活躍できるインクルーシブな職場環境を作ります。

私たちは、節度を保ち、ハラスメントと捉えられるような
言動は行いません。

働きやすい環境を作るために



- 一人ひとりの事情に応じた柔軟な働き方を尊重します
- 上席者は、各人の状況に目を配り、必要な対応を取ります
- 一人ひとりが安心して自分の意見を自由に発言し、行動できるように、お互いの違いを個性として受け入れ、お互いの考えを理解するよう努めます
- 常に相手の立場に立ち、不快感を与えていないか考え、言葉づかいや行動に気を付けます

12 私利追求の禁止

私たちは、業務上知り得た情報を悪用したり、野村グループにおける立場を利用したりして、不正に個人的な利益を得るような行為をしません。

私たちは、個人で証券取引を行う場合、適用される法令諸規則および野村グループ各社が定めるルールを守ります。

13 贈答や接待の管理

私たちは、お客様との適切な関係や社会からの信頼を維持するために、お客様、利害関係のある公務員、取引先等と不正な金銭の授受や、不相当な贈答、接待、被接待を行いません。

QA

Q お客様から、商品券を渡されました。いただいても良いのでしょうか。

A お客様からみだりに金品を受け取ってははいけません。
なお、上席者への報告や例外的に受け取れる場合の記録等、詳しくは、野村グループ各社のガイドラインを参照の上、定めに従った対応をしてください。

14

品性と自己規律

私たちは、常日頃から決して驕らず謙虚に、
自分の言動に責任を持ち、
社会からの信用を損なうような行為はしません。

基本的な立ち居振る舞いとして



- 傲慢になったり横柄な態度を取らず、思いやりをもって周囲との心地良い関係を保ちます
- 独りよがりにならず、自らの発言や振舞いを客観的に省みます
- 公私共に社会人として恥ずべき行為（他人に迷惑を及ぼすような過度な飲酒や浪費など）をしません

「品性と自己規律を守るために」とは



職場に限らず、会話や態度はいつもどこかで野村グループの社員として誰かに聞かれている・見られているという意識を持ち、責任ある行動をとってください。

SNSは、コミュニケーションや情報の収集・発信にはとても便利なツールですが、不適切な発信はお客様にご心配をおかけしたり、会社の信用を大きく傷つけることがあります。たとえ、氏名等が明記されていなくても発信者や会社が特定されることも多いため、野村グループの信頼性やブランドに大きく影響する可能性があることに留意し、社内ガイドライン等に従って常に良識を持って利用してください。

15 過ちから学ぶ

私たちは、自らの過去の過ちを謙虚に受け止め、再発防止を徹底します。

社内外の様々な失敗の事例を他人事として見過ごさず、自らを見つめなおすきっかけとして活用します。

風化をさせない

野村グループは、過去に複数の不祥事を経験しています。

私たちは、信用が一瞬で崩れ落ちる怖さ、一度失った信頼を取り戻すことの難しさを知っています。そして同時に、過ちから多くのことを学んできました。

毎年**8月3日**[※]には、全社で過去の教訓を振り返り、認識を新たにする機会もあります。学んだことは決して風化させません。

16

声をあげる責任

私たちは、法令違反や行動規範に反する行為、あるいはこれらの疑いのある行為を発見したときには、上席者やコンプライアンス部署もしくは各社のコンプライアンス・ホットラインに躊躇することなく報告します。

声をあげるにあたって



- 声をあげることが、お客様や役職員、会社を守ることにつながります
- 見て見ぬふりはせず、周りの人を正し、守る勇気を持ちます
- 「なにかおかしい」と感じたら、視野を広くもって意見を述べ、行動します
- お互いの「なにかおかしい」という疑問を声に出せる雰囲気づくりに努め、他の人があげた声は真摯に受け止めます
- 相談を受けた側は、声をあげた人が不利益を被らないよう配慮し、誠意を持って接します

コンプライアンス・ホットライン



野村グループは、「なにかおかしい」と思った際に声をあげる内部通報の仕組みとして、コンプライアンス・ホットラインを設けています。通報は匿名でも行えます。ホットラインに寄せられた情報については、通報者に関する秘密を厳守しつつ必要な調査が丁寧に行われます。

そして、必要に応じて是正措置が講じられます。通報者には、情報提供を行ったことによる不利益は一切ありません。

私たち一人ひとりの「おかしいな」という気付きが、野村グループを、より良い方向に導くきっかけになります。ためらわずに、積極的に声をあげましょう。

私たちは、社会の一員として、社会に対する責任を負っています。

さらに、豊かな社会を実現するために、
私たちは、一歩先へ踏み出します。

CONDUCT for **SOCIETY**

社 会 の た め の 行 動

17 次の時代への一歩 → 47

18 持続可能な社会への貢献 → 49

19 多様性と人権の尊重 → 51

20 適切な情報開示 → 52

17 次の時代への一歩

私たちは、豊かな社会の実現に向け、社会課題の解決や持続可能な社会の形成につながる資金の流れやイノベーションを生み出す重要な役割を担っています。

この役割を果たすため、私たちはステークホルダーと共に様々な取り組みを進めていきます。

社会課題の解決につながる資金の流れやイノベーション創出のために



- お客様をはじめとした様々なステークホルダーの声に真摯に向き合います
- グループとしての総合力を活用して、各地域における社会課題の解決に取り組みます
- デジタル等の新技術の活用によりイノベーションを創出し、お客様それぞれのニーズに沿った付加価値の高い商品、サービスを考え、お届けします

Q 野村グループの考える「豊かな社会の実現」とは具体的にどのようなことですか？

A 個々人の価値観や幸せの感じ方が多様化する中で、「豊かな社会」のあり方は様々です。私たちは、金融資本市場を通じて、リスクマネーの循環を後押しし、お客様をはじめとしたすべてのステークホルダーの挑戦、何かを良くしたいという思いをサポートしています。これまでに築き上げてきた国内外における強固な事業基盤、幅広い金融サービスを提供する機能、高い専門性を持つ経験豊かな人材を活かし、ステークホルダーの皆様それぞれの「豊かさ」の実現に向けて共に挑戦していきます。さらに、社員一人ひとりが自らの挑戦を続けることで、豊かな社会の実現につながると考えています。

※2024年4月1日に公表された『野村グループのパーパス策定にあたっての想い』を参考にしています。

18 持続可能な社会への貢献

私たちは、すべての国や地域における文化と慣習を尊重するとともに、環境や社会に対する責任を常に意識して行動します。

また、様々な社会貢献活動に積極的かつ持続的に取り組みます。

一人ひとりが、社会のために、今できることは



- 気候変動をはじめとする自然環境の変化を理解し、資源の有効活用や電力の使用量削減のほか、様々な環境への負荷低減活動に取り組みます
- 幅広い世代に対して金融や経済についての理解を深める機会を提供し、資産形成に関する知識の普及と健全な資本市場の形成に貢献します

サステナビリティ※(持続可能性)に関する野村グループの考え方



私たちは、地球環境の保全や多様な人々の活躍の推進といった取り組みが経済活動や社会の維持と発展に不可欠であることを認識しながら、金融商品や各種サービスの開発・提供を行うとともに、私たち自身が持続的に成長していくために、グローバル展開やコーポレート・ガバナンスの強化などの取り組みを進めています。野村グループの企業価値向上と社会全体の持続的な成長は同じ道の上にあります。すべての役職員がサステナビリティに関する視点を持つことが重要です。

※サステナビリティ：「持続可能性」を意味する言葉。経済・事業活動は環境や社会の上になり立っており、企業は単に利益のみを追求するのではなく、環境・社会が持続可能であるよう長期的な視野を持って活動することが必要であるという考え方

19 多様性と人権の尊重

私たちは、国籍・人種・年齢・性別・性自認・性的指向・信条・社会的身分・障がいの有無等を理由とする、一切の差別を行わず、個々に適した機会を提供します。

私たちは、社会の異なる価値観を尊重し、すべての人々に対し、常に敬意をもって誠実に向き合います。

20 適切な情報開示

財務情報に加え、経営戦略などの非財務情報を含む野村グループの情報については、外部への公平かつ適時・適切な開示を積極的に促進し、社会からの正しい評価と信頼を確保します。

適切な情報開示をするために



- 業務および財務に関する情報は、所定の期間保存し、虚偽の作成や改ざん、意図的な隠匿または悪意による破棄は決して行いません

野村グループ 行動規範

© NOMURA HOLDINGS, INC. ALL RIGHTS RESERVED.

2025年3月

G O P E

of

CONDUCT